

令和5年度 第5回ゼロカーボン研究会 事後調査報告

1. 調査概要

1.1. 目的

ゼロカーボン研究会に参加する自治体及び事業者等の研究会へのニーズを調査・分析し、岡山連携中枢都市圏、周辺自治体、事業者及び大学等と「ゼロカーボン社会」実現へ向けた“実現可能な事業創出”につながる研究会及び分科会を開催することを目的とする。

1.2. 実施日

2024年1月17日(水) 研究会終了後

1.3. 調査対象

令和5年度 第5回ゼロカーボン研究会の参加者33名(自治体13名、民間事業者・その他20名)を対象にアンケート調査を行った。

1.4. 調査方法

アンケート形式は、用紙記入、web記入の回答方法とした。

1.5. 回収状況

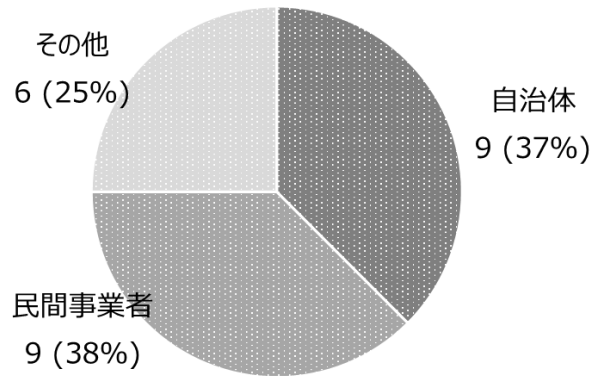
回答数：24件(自治体9件、民間事業者・その他15件)

回収率：73%(自治体69%、民間事業者・その他75%)

2. アンケート結果

1) アンケート回答者の所属区分

(n=24)



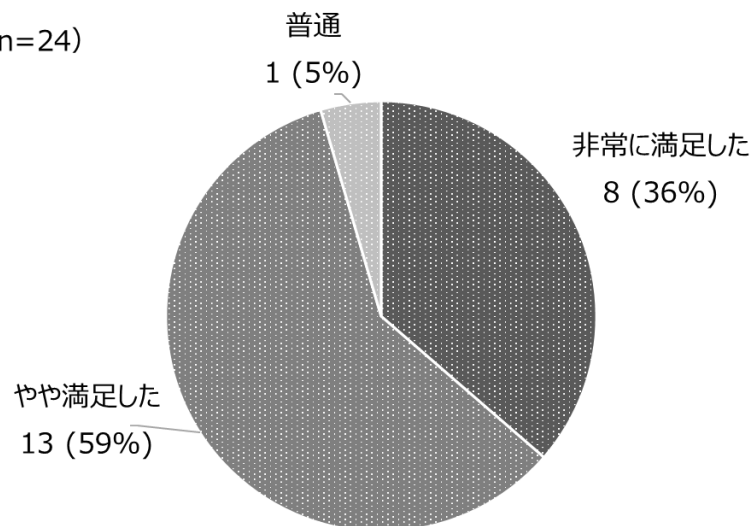
【その他の内容】

- ・ 公益財団法人
- ・ NPO (3件)
- ・ 中国四国地方環境事務所 (2件)

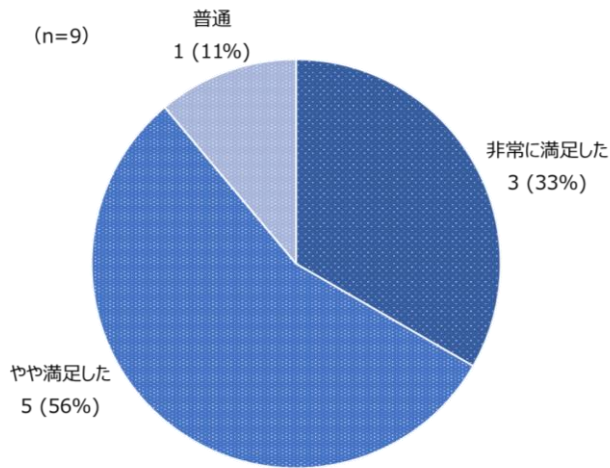
2) 今回の研究会に対する満足度を教えてください。

- 全体の満足度は「やや満足した」が最も多く、全体の59%であった。また95%が満足したと回答した。

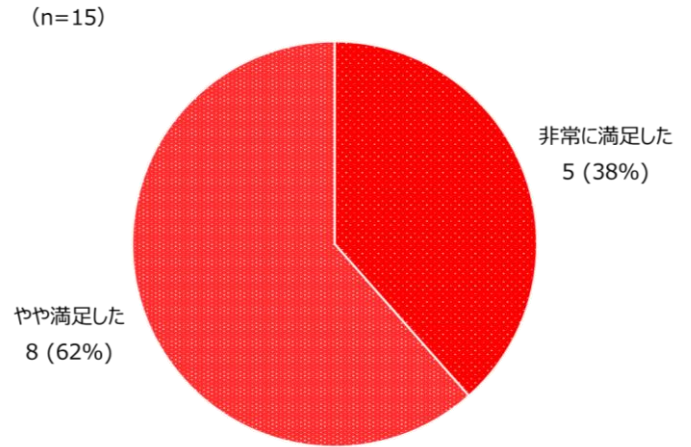
(n=24)



回答者：全体



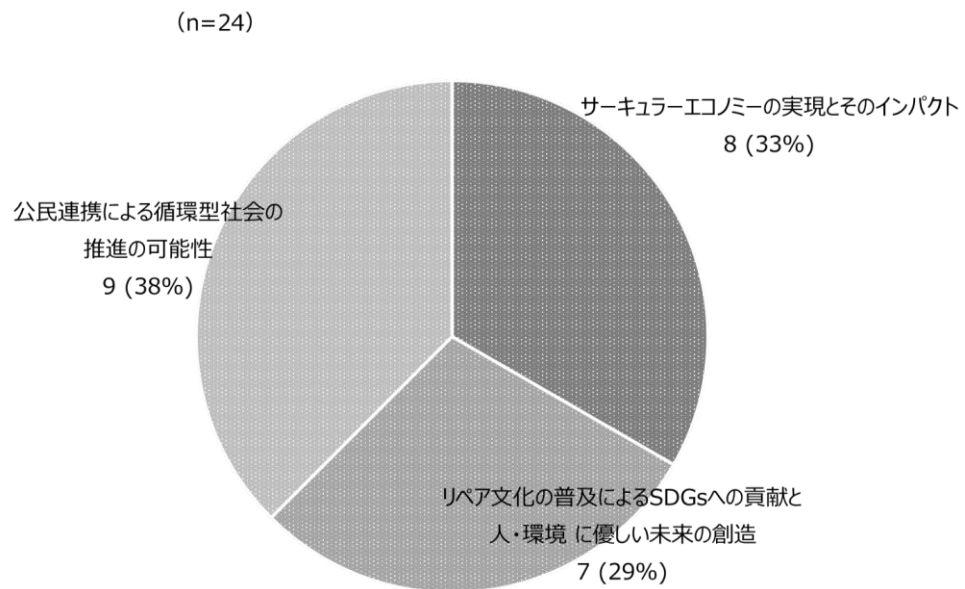
(満足度) 自治体



(満足度) 民間事業者・その他

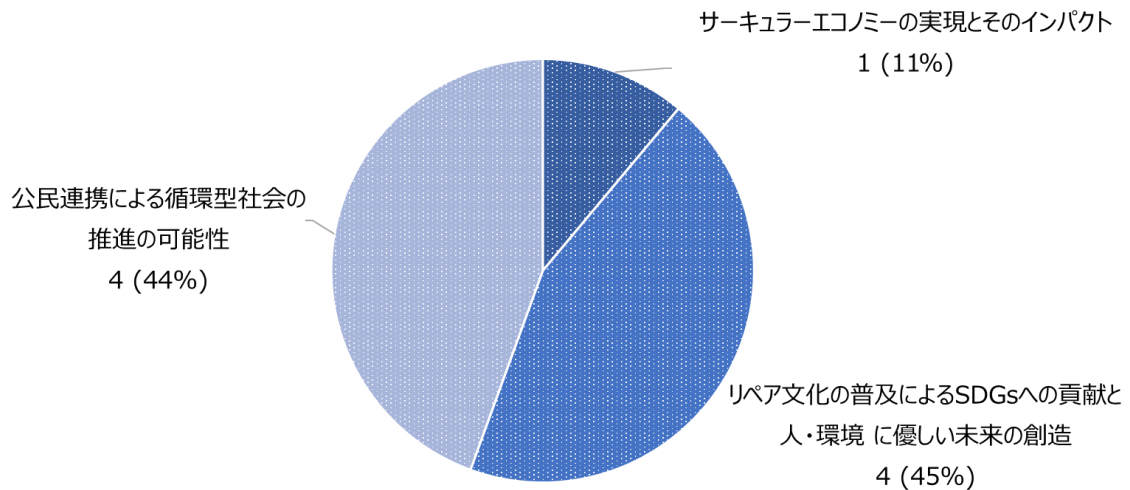
3) 最も参考になった講演内容を選択してください。

- 全体の回答としては「公民連携による循環型社会の推進の可能性」が最も多く、次いで「サーキュラーエコノミーの実現とそのインパクト」が多かった。



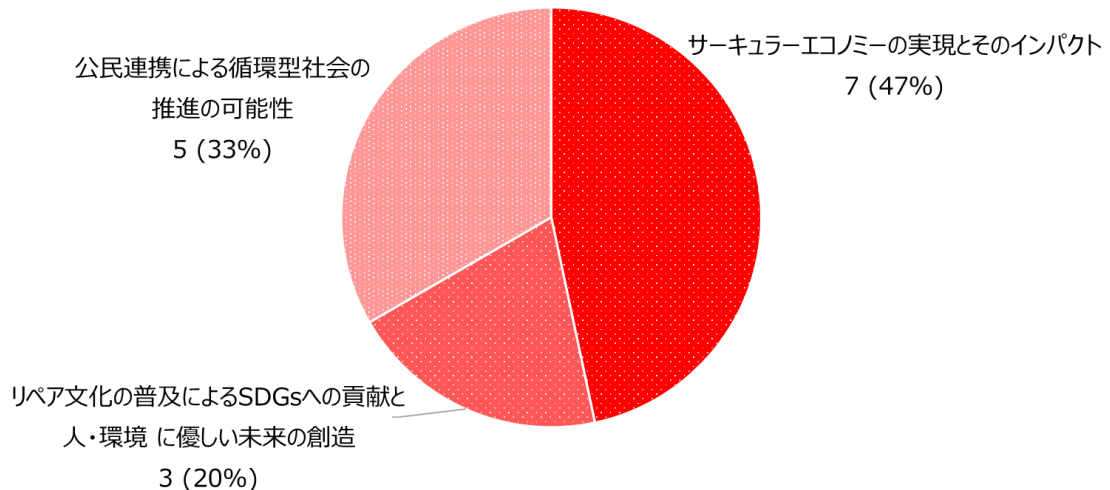
回答者：全体

(n=9)



回答者：自治体

(n=15)



回答者：民間事業者・その他

4) 上記でご回答いただいた理由や、今回の研究会で印象に残った内容などあれば教えてください。

- 知らなかった人に周知していく取り組み（リペアカフェ）が、印象に残りました。輸送の GHG 排出のインパクトが大きいことがわかった。
- 自治体のショップについて、質問でも出ていたが、他社との比較も参考になった。リペア協会も、大変参考になった。
- サーキュラーエコノミーの実現には、継続的に「修理」する文化づくりが必要であることが印象に残りました。

- サーキュラーエコノミーとは何かを短時間で濃厚な内容で説明いただき、理解することが出来た。今後の動向（ISO等）もわかり参考になった。個人的には、岡山県リペア協会様やメルカリ様の内容について非常に参考になり、今後活用していきたいと思った。
- 地産地消でのメルカリ Shop
- メルカリさんと自治体との取組み事例は存じあげませんでした。とても良い取組だと思います。全国各自治体にひろがればと思います。
- 公民連携の事例、空屋対応
- 岡山市としても、リユース施設を持っていますが、出品するにあたり、どこまでやるべきなのか疑問があります。リペア文化とかぶる部分があるし、ゴミ減量の為にやっている。せっかく出品するのなら、付加価値も上げたいと思っています。リペアをやる考え方は教えてもらいたいと思います。
- サーキュラーエコノミーは手段であり、それが目的ではないという意味が良くわかりました。今後も正しい理解を深め、情報収集を行っていききたい。
- メルカリ Shop の活用方法。自治体の方と連携して、不要な資産の活用などに検討していきたい。
- リユースの進捗状況が分かり、循環型経済が進んでいること。
- サーキュラーエコノミーを推進していく上での評価の話聞いたこと
- サーキュラーエコノミーについて詳細を知ることができました。ありがとうございました。
- 自治体の様々な分野での課題解決に民間サービスが活用できていることが、事例をもって紹介されたので、とても参考になりました。
- リペアカフェに参加してみたいなと思いました。
- メルカリは使ったことがないが、商品の搬出・搬入にはエネルギーがかかることが気になる。サーキュラーエコノミーの講演でもふれておられたが、輸送の時のCO2資源発掘の負荷をどう考えるか、効率がよければ、ものを大切にすることは大事なことと思う。※地産地消を目指しておられるとのことで、その方向が大切だなと思いました。
- 意見交換会で、リペアテックの佐々木さんより、「修理できないものはない」との発言が興味深かった。
- 資源循環に貢献する取組が返ってGHGの排出増加に繋がる可能性があることに驚きました。ISOの内容は注視していきたいと思います。
- 循環させることで、かえってGHG排出が増える場合がある・・・のは驚き、というかよく考えたらもっともなことだなあと感じました。こういうお話は聞いたことがなかったので、勉強になりました。ありがとうございました。
- サーキュラーエコノミーといわれる行動が、バックファイア効果を考慮すると、必ずしもGHG削減につながるとは限らないことが印象に残った。

- 小さな自治体でも、初期費用かからず登録可能とのことで、県内で岡山市が先行して導入されているような事例を参考にして検討できたらなと思いました。
 - 不用品の出品については、ごみの削減の面、GHGの削減の面、財源確保の面からも効果的だと思いました。財源不足でできない事業を、この財源で実現できる仕組みが作れると良いと思います。
- 5) 来年度の研究会に向けて、取り扱ってほしいテーマやその他、ご意見・ご感想などあればお聞かせください。また、今年度は大規模開催や現地視察を行いました。今後の研究会の開催形式についてご意見などございましたらご記入ください。
- 出席者は、脱炭素に何らかの取組みを行っている。もしくは意識を持っている官民であると思います。この研究会で、参加者が交流できる場になれば、それぞれの知見や取組みの意見交換でき、点から面での展開が図れるのではないかと思います。
 - 今年度、幅広い分野（テーマ）で開催され、個人的には非常に参考になりました。
 - 今後のISOの活動についての報告。発表をお願いいたします。メルカリの新しい事業など勉強になりました。
 - 日程が合わず参加できない人向けに後日の動画配信があると非常にありがたいです。
 - 脱炭素の担当部署だけでなく、広く行政の課題解決に活用できるツールとしての脱炭素の可能性・活用例を部局を超えて周知することが、関連事業の増加につながるのかと思います。部局横断につながる形式があると良いかも。
 - 子ども向けの環境啓発イベントなど、地域の方が高齢化のため、参加しづらくなってきた。新しい人材を発掘するためのコツなど知りたい。
 - プラスチック製品の利用、リサイクルなど。
 - 配布資料もペーパーレスの観点から、データ配布希望者にはデータ配布をお願いしたい。

以上